

【主題名】 自己を見つめる
【教材名】 「自分」ってなんだろう (日本文教出版 2年)
日高村立日高中学校

発行



令和5年3月

中部教育事務所

内容項目 A-3 【 向上心、個性の伸長 】

～教材研究会で出された課題～

- ・自分事となるような手立て
- ・「ジョハリの窓」の活動は必要か？
- ・中心発問、問い返し、揺さぶりの発問

1. 何を深めるのか

何を深めるのか

指導の要点

実態を踏まえ、生徒と何を考えたいのか 指導の意図を持つ

人には良い所と悪い所があるということを受け止め、人が成長していくには自分自身の良さを伸ばしていくだけでなく、自分の弱さも認めて生きていく事が大切であることに気づき、弱さも認めながら、自分の良さを伸ばしていこうとする言動が生徒から出されるようにしていきたい。

引き出したい生徒の考え 生徒の言葉でゴールを明確に描く

- ・これまででは、自分の弱さはいけないことで、見せるのが嫌だったり恥ずかしかったりしたけど、それも含めて自分だということがわかったから、自分の弱いところも受け止めていこうと思う。
- ・自分には、～な良さがあることに気づいた。この良さを生かして、部活ではサッカーを一生懸命努力したい。この良さを見つけてくれた友達の良いところも積極的に伝えていきたい。自分には弱いところもあるので、弱音が出る時は友達に相談したい。
- ・弱いところのある自分を恥ずかしく思わない。だって、弱い自分も自分。弱さを認めると隠すこともないから、自分らしく生きていける気がする。弱い自分を見せられる、見せてくれるクラスになるとみんなが気持ちいいと思う。



ねらい

自分自身の良さや自分らしさが見えづらく歯がゆい思いをすることもある中で、ありのままの自分も実際に周りに見せたい自分も合わせて自分らしさであるということに気づき、それらを受け止め自分自身の個性を伸ばしながら、自分らしく生きようとする態度を育む。

発問構成 「自我関与を図ることを中心とした道徳の授業」

「本当の自分、見てもらいたい自分」を考えることで自我関与を図り、さらに、教材文の最後の1文を考え、伝え合う中で多様な考えに触れることで主題に迫る。

2、本当の自分、見てもらいたい自分をWSに書く。 ○本当の自分を書きましょ。 ○見てもらいたい自分を書きましょ。 ・両方とも自分らしさであることに触れる。	本当の自分、見せたい自分
3、自分らしさがどんなことを考え、今の自分はどれくらい数値で表し、理由を話す。 ○自分らしさってどんなことでしょうか。	数直線で可視化、現状把握
○今の自分を数値で表すとどれくらいかな？ ・WSに書いた人から黒板に名札を貼りに行く。その後数値の理由を生徒に聞く。	最後の1文を考え、ジャムボードを使用し共有を図る
4、教科書を読み、(電子黒板 ありのままの自分から)最後の1文を考える。 ○あなたなら最後の一文にどんな文を入れたいですか。自分の言葉で書いてみましょう。 ・全体で共有する(ジャムボードを使用)。その言葉にした理由を聞く。	中心発問 「自分らしさを大切にするためにはどうしたらいいですか」 生徒の反応に対して想定した「問い返し」「揺さぶり」の発問
○自分らしさを大切にするためにはどうしたらいいか考える。 ◆成長がなくていいということ？(無理をしない) ◆目標を低くしたらいいってこと？(無理をしない) ◆自分を愛していたらいいの？(自分らしさ) ◆弱い自分を見せるのってしんどくない？(弱い自分を見せる)	<ul style="list-style-type: none"> ・がんばらなくていいということ？ ・目標を低くしたらいいってこと？ ・自分を愛していたらいいの？ ・弱い自分を見せるのはしんどくない？

2. どう深めるのか

～指導上の3つの工夫点～

具体的手立て

自分自身との関わりで考えるための工夫	「ありのままの自分」や「見てもらいたい自分」を考え、さらに、「自分らしさ」とはどういうことかを考える活動を通して、自分自身を見つめながら考えられるようにする。
多面的・多角的に捉えるための工夫	「最後の1文」を考えジャムボードで共有し、友達が多様な考えに触れる活動を通して、自分との考えの共通点や相違点に気づき、自分の考えが広がるようにする。
主題に迫るための工夫	中心発問において、問い返しや揺さぶりの発問を段階的に仕組み、生徒の意見をつないだり、考えさせたりすることで、自分の良さだけでなく、弱い自分も自分であることを認めながら生きていく事の大切さを考えていきたい。また、自分の弱さを認め克服することだけでなく、自分の個性や良さに気づき伸ばしていくことも大切であることを考えたい。

- 「ありのままの自分、見てもらいたい自分」をワークシートに書き出し、両者を合わせて「自分らしさ」であることを押さえてから、「自分らしさを出せているか」数直線で表し理由を勾留することで「自分らしさ」について考える。
- 「最後の一文」を考え、ジャムボードに記入したことについて理由を発表し、中心発問「自分らしさを大切にするには」へつなげられるようにした。
- 「引き出したい生徒の考え」を引き出すために、発問を段階的に仕組み、表面的な考えから、思考が深まり広がるようにした。(左下欄参照)

3. 「振り返り」から指導の工夫の実効性を検証する

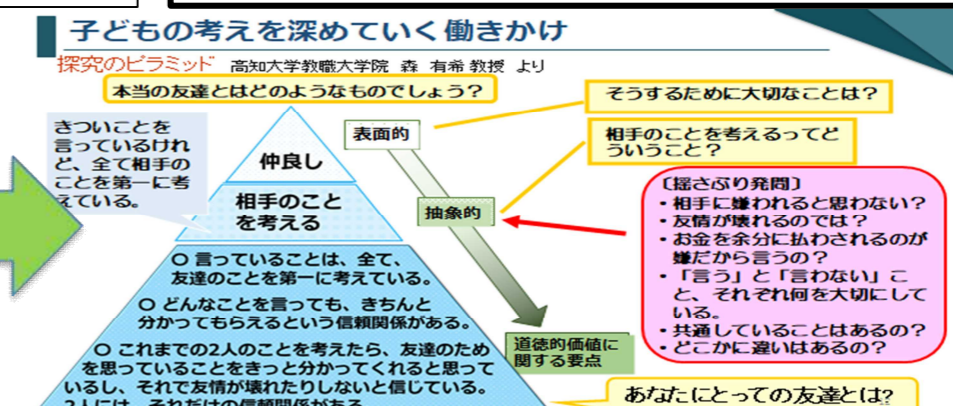
ICTの活用: Google スライドを使用した協議、共有

児童生徒の振り返りから授業の効果を見取る (A)グループ	効果的だと考えられる工夫
話し合いに慣れている(二人組、前後などスムーズ)。よく話し合いができていた。切り返し発問は要所でできていた。引き出したい「周り(環境)も大事」ということについても理解できていた。	
授業のどの部分を改善するか	
一問一答で対教師になってしまったのがもったいないかな。子どもの思いを聞いたあと、理由も聞くけどそこから意見や考えを深めていくことができたらもっと良かった。最初の「本当の自分」を書かせる段階で「自分の弱さ」をもっと拾っておくと良かった。先生の「失敗嫌やもん」のあとのペア活動をもっと広げていくと良かった。先生の弱さで話を進めたいと意見が出やすかったかも。→自分の生活につなげるチャンスではなかったか？本音が聞かされた。最後の方で自分の弱さを出すことの難しさ、わかっているけど出せないことをもう一度考え直す機会があったら良かった。Jamでた意見の活用は？	

◆森有希教授の講話◆ 道徳的諸価値の理解、道徳科と他教科との関連

- 道徳的諸価値の理解を基に考える●
 - 問い返しを考える
 - ・内容項目に示されているプラスの考えの反対を問う →人間の弱さに着目して問いをつくる
 - 意見交流を考える。
 - ・生徒の発言を生かす発問例 「今、どの考えが特に大切と思った？」 「自分が一番、納得と思ったのは？」 「どうしてそう思った？」
 - 多様な考えが出た時は、理由を整理し、子供達が何を話し合っているのか明確にすることによって、主題に迫ることができる
 - 道徳科と他教科との関連●
 - カリキュラムマネジメントを踏まえた教育活動

教材研究会の学びを生かして 探究のピラミッド(高知大学教職大学院 森有希教授)を活用した「子どもの考えを深めるための働きかけ」



「考え、議論する道徳」の授業づくりをめざして